

## 「薬剤耐性（AMR）の新アクションプランについて」

この度、「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023-2027（概要/本体）」が発表されました。前回のアクションプランでは、普及啓発・教育、動向調査・監視、感染予防・管理、抗微生物剤の適正使用、研究開発・創薬、国際協力の6領域の目標のもと、AMR対策に対して様々な対策が行われてきました。その結果日本における抗菌薬の販売量は前回のアクションプランの定めた目標値近くまで低下しました。

一方で市民のAMRに対する知識や意識の改革はまだ道半ばです。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌やフルオロキノロン耐性大腸菌の問題にはなかなか改善が見られていません。また病院におけるサーベイランス体制が整いましたが、診療所をはじめとして地域での感染症の診療や耐性菌の状況のサーベイランスはまだ十分に出来ていません。また耐性菌が世界で問題となるなかで新規抗菌薬を開発して医療現場に送り出すことが必要なのですが、その研究開発が下火となっています。これを再度活性化させるための対策が必要です。またCOVID-19にわかるようにAMRについても国際的な協力の中で対峙することが必要ですが、日本はその中でリーダーとなる役割を期待されています。こうした課題に答えようとしているのが新アクションプランです。

皆様の実践に関連する事項が多く盛り込まれていますので業務の参考になると思いますし、今後の医療政策の動きもこれを読むことで先読みが出来ます。現場でご活用頂ければ幸いです。

薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2023-2027（概要/本体）

URL：<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000120172.html>

2023年5月23日

国立国際医療研究センター 大曲貴夫

日本病院会 感染症対策委員